



MIHARUKASU

みはるかす (※校歌の一節。遠くを見通す。・未来を見つめる。)



○豊見城中学校学校教育目標 「自律、協働、創造し 未来を築く生徒」

【毎月第1水曜日 人権の日】

本校では、毎月第1水曜日を「人権の日」と設定し、朝の15分間を活用し人権に関する朗読や動画視聴などを通して人権について考えを深めています。9月は放送委員による人権資料の朗読後に人権について考えを深めました。今月の人権資料を紹介します。「去年、私のクラスメイトが二人、ケンカをした。その時に一人の生徒が相手に「障害」と言ったことから、担任の先生から障害者についての話があった。「みんなは障害者にどんなイメージを持っていますか？」先生の問いかけに、教室が静かになった。障害者といえば、生活に支障があって一人では生活できない人のことだろう。例えば、盲目の人や体が不自由な人など。みんな、そう思ったはずだ。しかし、先生の次の言葉は私たちにとって思いもしないことだった。「先生は、全ての人が障害者だと思っている。もちろん先生自身もだ。」先生のその言葉に、私は正直何を言っているんだろう、そう思った。「みんな障害を持っているっていう表現をするけど、障害というのは、持っているんじゃなくて、生きていくときにその人にとって苦手なことやできないことがあるような、高い壁がある事だと思うんだよね。だから先生はさっき、全ての人が障害者だと思うって言ったわけ。だって、みんなにも苦手なこととかできないことってあるでしょ。みんなが言っている障害者っていうのは、ただみんなよりも目の前にある壁が少し高いだけ。そう考えると、障害は持っているんじゃなくて、あるものじゃない？ みんなが苦手なことを練習してできるようになるようにそれぞれ自分にあった方法で頑張っているんだよ。」そう考えればそうだと思う。目の見えない人は点字という方法で文字を読んだり、耳が聞こえない人は手話で会話をしたり、それぞれが、自分ができないことをどうにかしてカバーしている。それを、私たちが勝手にかわいそうだと思う、無意識に「障害者」というレッテルをはっていたのだ。先生の話を聞いたことによって私は、無意識のうちに他人に偏見を持っていた自分に気付くことができた。私の「あの子はこれができないから私がやってあげた方がいいかも。」という考えは、親切心からであろうと、相手からしたら、その人の成長の機会を私が奪い、迷惑になっているかもしれない。それに気付いてからは、手伝ってばかりじゃなくて、側でそっと見守るということもできるようになった。そうすることによって新しく気付いたことがある。



私が思っていた以上にできていたり、私が手伝っていたからできなかったこともすごく多かったように感じる。全部が全部、手伝えばいいんじゃない。そう気付くことができた。先生の話によって、私は他人に対しての偏見に気付くことができた。私だけじゃなくて、多くの人が他人に対して偏見を持っていると思う。日本は平和主義であるが、一人一人の勝手な偏見によって、いじめや差別が起きるのではないだろうか。一人一人が偏見をなくすことによって、みんなが安心して楽しく過ごせる、そんな「人権」が守られると思う。偏見を持たないことは、自分の「人権」を守ることにもつながるだろう。」(令和6年度沖縄県人権作文コンクール奨励賞 豊見城市立豊見城中学校2年生 酒匂真凜)

【9/12 第1回学年MIXデー】

9月12(金)、「①生徒会執行部・各種専門委員会を中心に企画・運営し、生徒一人一人が主体的に参画し最後まで責任を持ってやり遂げる。②他学年との交流の場を作り、生徒間の関わりを増やすとともに新しい交友関係を築き、学校をより楽しいものにする。③様々な人と協力する姿・態度を育む。」ことをねらいに、第1回学年MIXデーを開催しました。この行事は、生徒会長の知念咲希さんが役員選挙の時から実現を訴えてきたもので、これまでになかった初めての行事となりました。1年生から3年生までそれぞれ7~9名ずつが集まった20数名の男女混合グループ40グループが、それぞれ違う教室に分かれて、そのグループの中でゲームやクイズに挑戦し互いの仲を深めました。益々、自律、協働、創造する生徒会、たくましい生徒会です。

